

「コロナ差別」について

昨日の人権放送では「水俣病」に関する差別や偏見の話聞き学習しましたがみなさんは、「コロナ差別」という言葉を聞いたことがありますか？

最近、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、「コロナ差別」が日本のテレビニュースや新聞・インターネットなどでも報じられるようになってきています。欧米では、新型コロナウイルスに感染しているかもしれないということで、アジア系の住民や旅行客が暴行や差別を受けたという事例も多数報告されているそうです。こうした差別が欧米や日本国内でも問題となっています。

皆さんが学校をお休みしていた4月から5月の休業期間中に、ある都道府県で感染が確認された人の家に石が投げ込まれてガラスが割られたり、その壁に落書きをされたり、ヨーロッパを旅行し大学生が、感染に気づかず食事会などに参加したところ、クラスターが発生し、その大学には、抗議や脅迫の電話やメールが数百件届いたり、その他にも、医療従事者に対する入店拒否やバス・タクシー等の乗車拒否、その子どもが保育園に登園することを自粛するよう求められたことや子どもへの「いじめ」、などがテレビニュースや新聞・インターネットなどで報じられました。

このような差別や偏見、「いじめ」は、テレビニュースや新聞・インターネットなどで報じられたものは、おそらく氷山の一角で、根深いコロナ差別が広がってことが考えられます。

では、どのような人たちがコロナ差別を受けているのでしょうか？

まず、感染者や濃厚接触者、その家族です。次に、緊急事態宣言による指示自粛行動を守らなかった感染者や濃厚接触者、関係者など（感染の拡大している国や地域に行った人）で、そして、医療従事者や日常生活を送る上で欠かせない仕事を担っている人たち（運送業者や郵便局員、スーパーやドラッグストア、消防員や警察官、公務員など）、さらに接客業など人と接触することが回避できない職種の人たちです。

医療従事者については、病院内での感染や施設内での感染を起こした医療機関や施設に勤める人たちやその家族などは、さらに陰湿な差別、「いじめ」を受けているかもしれません。

いずれも、その人たち、つまり差別や偏見、「いじめ」は、被害者の心の傷がより深くするだけで、新型コロナウイルス感染症の拡大の解決には、全く役立ちません。

もちろん神原中学校では、そのような差別や偏見、「いじめ」は、絶対に許しません。もしあれば、必ず先生方へ相談してください。必ず守ります。

では、今、私たちにできることは？

それは、新型コロナウイルス感染症とその予防対策について、先生方の話をしっかり聞き、正しく理解して自主的に実践することです。

そして、一人ひとりの神原中生には、このような状況の時こそ、家族、友達、先生方など誰に対しても、温かく優しい気持ちで接することをより一層大切にしてほしいと願っています。その基本でもある相手をリスペクト（尊重）する態度は、誰もが輝くことのできる神原中学校にとって、とても大切なことです。

以上で校長講話を終わります。これからの皆さん一人ひとりの行動に期待しています。

令和2年6月9日（火）
神原中 校長 馬上 晃